

1. 活動の概要

6月18日(水)、松江市立義務教育学校八束学園で「古代の八束学園周辺の歴史とお金について学ぼう」と題して『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

まずは学校周辺の歴史について、発掘調査が行われた遺跡や『出雲国風土記』の記述を中心に古代文化センター職員が説明しました。その後、調査で見つかった本物の土器を並べて解説し、さらにその土器を実際に触ってもらいました。1300年前の土器の本物を手に取る機会はそう多くはないので、貴重な体験になったのではないかと思います。

続いて和同開珎づくり体験を行いました。各グループで役割を分担し、協力して作業してもらいます。あわせて古代のお金と和同開珎についても説明し、お金の歴史や特徴について考えてもらいました。

2. 活動の様子

1)古代の八束学園周辺の歴史を学ぶ



昔はどんな島だったのかな!!



ホンモノの土器を触ってみよう!

2)和同開珎をつくろう



火を使うから要注意



完成までもう少し!!



どうしてお金が生まれたの?

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・大根島や江島の歴史を知ることができてよかった。
- ・八束にたくさん遺跡があることに驚いた。
- ・合金を型に流し込むのは緊張したが、上手く出来てよかった。
- ・なぜ日本は銀や銅でお金を作っていたのか。ほかの国のお金についても知りたい。

2)担任の先生から…

- ・事前の打ち合わせを丁寧にしていただいたので、こちらの意図する内容に合致していた。
- ・ホンモノの土器に触れるなど、通常の授業ではできない経験をさせていただいた。
- ・講義や説明について、まだ学習していない内容があったこともあり、小学6年生には難しい部分があった。もう少し易しい言葉で説明してもらえるとよかった。

3)古代文化センターから

学校がある大根島や隣りの江島では、昔の人が住んでいた家の跡や使用した土器など、古墳時代～奈良時代にかけての生活の痕跡が発掘調査によって確認できます。さらに、奈良時代に完成した『出雲国風土記』には、大根島や江島がそれぞれ「タコ島」「ムカデ島」と呼ばれていたこと、そしてなぜそのような名前がつけられたのかといったことについても記されています。自分たちの住んでいる土地の歴史について学んだことで、より愛着をもってもらうきっかけになったのではないのでしょうか。授業では、古代の人たちが実際に使っていた土器を手にとってもらう時間も設けました。重さ確かめたり、ひっくり返して裏側を見たりと、皆さん興味をもって思い思いに観察している様子が印象的でした。

和同開珎づくり体験では、3～4人のグループに分かれて作業してもらいました。合金を鋳型に流し込んだり、枝銭から銭を取り外したりするのはなかなか難しいのですが、どのグループも全員で協力して上手にすることができたのではないかと思います。あわせて“お金の歴史と和同開珎”について解説しました。和同開珎一枚の価値を説明すると、皆さんとても驚いていました。島根県内でも和同開珎が見つかっていますので、機会があれば博物館に足を運んで本物を見てもらえればと思います。